



主のご復活おめでとうございます

「通常聖年から聖フランシスコ年（特別聖年）へ」 フランシスコ会からのメッセージ

教皇庁内敕院は2026年1月16日、教皇レオ十四世が2026年1月10日から2027年1月10日まで、「聖フランシスコ年（フランシスコの特別聖年）」とすることを発表し、同期間に全免償を与える教令を公布しました。この教令の目的は、2025年の通常聖年に引き続き、混乱する現代社会において、フランシスコの「平和・謙遜・愛」の精神を模範にすることです。そしてこの年も、特別な恵みとして全免償を受けることができます。この期間、特定の条件を満たした信者には、罪の罰を免除する「全免償」が与えられます。その対象は、フランシスコ会関係者に留まらず、全ての人まで対象とされました。

札幌北ブロック主任司祭 間野正孝神父（フランシスコ会） からのメッセージ

2024年12月24日から2026年1月6日まで、25年毎に開催される通常聖年が閉幕しました。札幌教区のような部分教会は、2024年12月29日北一条カテドラルにおいて開門ミサが、2025年12月28日閉門ミサが、勝谷太治司教の司式で行われました。皆さんの中には、道内6つの指定教会のミサに参加され、全免償を受けられた方もいらっしゃるかと思います。

この通常聖年が終わった翌日の1月7日、教皇レオ十四世は「フランシスコ会家族総長への手紙―アシジの聖フランシスコ没後800年に当たって」という書簡を総長たちに送り、教皇庁内敕院は2026年1月

10日から2027年1月10日まで特別聖年に与えられる全免償の教令を公布しました。この教令は、今年2026年10月3日でフランシスコ没後800年を迎えることを記念して行われるもので、この期間を「聖フランシスコの特別聖年」とすることを発表しました。

アシジのフランシスコという名前を一度は聞いたことがあり、イタリヤ巡礼でアシジの街やフランシスコゆかりの地へ行かれた方もいると思います。そのフランシスコが帰天されて今年で800年という節目を迎えました。修道会では近年800年に因んで、2023年には馬小屋（プレゼピオ）、これが飾られている期間中、フランシスコ会の聖堂でミサに参加し3つの条件を行うことにより全免償が与えられました。2024年には聖痕、2025年には太陽の賛歌などをお祝いする行事が修道会主催で関

東や関西、長崎で行われ多くの兄弟姉妹が参加されました。この「聖フランシスコ特別聖年」は「通常聖年」と同じく指定された教会へ行き、3つの条件「聖体拝領」「ゆるしの秘跡」「教皇のために祈る（主の祈り、アベマリアの祈り、信仰宣言など）」を行うことにより、全免償が与えられます。また、指定教会・修道院については勝谷司教と相談し、北海道においては札幌の北一条教会、旭川の神居教会、北見の北見教会、釧路の緑ヶ岡アントニオ修道院の4つとなりました。ここにはフランシスコ会の司祭が常駐しておりますので、ご連絡してからご訪問ください。

神は教会を通して「これでもか。これでもか。これでもか！」と私たちにたくさん恵みを与えてくださいます。この恵みが与えられる者として、フランシスコのとりなしを願いながら特別聖年を過ごしていきたいと思えます。

勝谷太治司教からのメッセージ

このたび札幌教区では、フランシスコ会から多大な協力を得てきたことから、共に祈る機会を設けることが相応しいと感じ、【札幌】北一条教会、【旭川】神居教会、【北見】北見教会、【釧路】聖アントニオ修道院を巡礼指定施設とすることにいたしました。この祈りの機会を受けとめて信仰生活を送っていただければと思います。

通常聖年閉幕式ミサ

2024年12月24日（札幌教区では29日）から2026年1月6日（札幌教区では昨年12月28日）まで開催された2025通常聖年の閉幕式ミサが、12月28日（日）午前9時から札幌カテドラル北一条教会にて、勝谷太治司教の司式で行われた。ミサには国内外の巡礼者も加わり約250名が参加した。

ミサの冒頭で勝谷司教は「わたしたちは聖年をともに体験してきました。…このいつくしみの体験に強められ、主との出会いによって力づけられて…」と、賛美とゆるしのこ

とばで祭儀を導入された。北一条教会では、聖年の期間中、地区集会や部会などでフランシスコ教皇の大勅書「希望は欺かない」の分かち合い、個人による訪問指定教会への巡礼、さらに11月には東京教区から晴佐久昌英神父を迎えて講演会など、多くの取り組みが行われた。

ミサの説教で、勝谷司教は学生時代の香港でのアジア青年との交流を語られ、この出会いが自身の生き方を変える

ものであったことが分かち合われた。それは現在でも、高校生エクスプロージャーや青年ツアーを計画し、現地の高校生、青年との交流を通して、彼らの生活の苦闘を肌で感じ触れる体験の大切さを訴えている。そのうえで、情報としてたくさん知っていても、それが自分とは違う世界の出来事では心は全く動かない。出向いて行って、声なき声に耳を傾け、目で見て、手で触れ、

じかに関わってもらいたい。具体的な出会いや出来事には必ず私たちの心を動かす何かがあると強調された。今後、わたしたちは、共同体や個人の生活の中でどのような主との出会いがあり、貧しい人たちの関りがどうだったのか、それぞれの分かち合いが楽しみである。そして、関わりについても司教は次のように促された。「社会で大きく扱われている問題について、わたしたちがどう関わるか尻込みしてしまうかもしれないが、もっと簡単などころから始めてもらいたいと思うのです。教会に来ることができず『カトリック・ジャパン・ニュースダイジェスト』を手

にできなかつた人に、わたしたちが出向いて行き、目を見て笑顔に向けた時、幸せな気持ちになつてもらえる人がいるなら、ぜひ出かけて行ってもらいたい。まず、そこから始めよう。そういう人たちがいることに気づかなければなりません。」

聖年は一区切りとなるが、わたしたちの希望の巡礼の旅はこれからも続く。この体験を機に一人一人が、そして共同体が、さらに主を賛美していきけるよう望みたい。最後に全員で歌った「テ・デウム」が、シノドス流に共に歩み続けるわたしたちの旅を励ますように聖堂内外に響いた。
(北一条教会・石井志郎)



神父さんのつれづれ記

お礼かたがたの現状報告



マリア会
光星修道院
山崎政利神父

わたしはマリア会の司祭修道士として光星修道院で共同生活をしながら、札幌光星学園理事長の任務に就いています。また、学園付き司祭として、宗教儀式の司式、生徒・教職員向けの毎月の講話、回数が少ないですが保護者へお話しなどをしています。マリア会は国内4都市で学校運営をしています。わたしの札幌での生活は3回目、合計15年となりました。

札幌教区のキノルド司教によって創立された札幌光星学園は、2024年に創立90周年を迎えることができました。お礼を申し述べることが遅くなりましたが、これも教会関係者、信徒の皆様からの祈りとご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。

男子校として知られていましたが、2008年から男女共学となり、現在、中学校・高等学校合わせて約1300人の生徒が通学しています。カトリック信者は多くなく、生徒で5、8人くらい、教職員で9人となっています。

カトリックのミッション・スクールとして、勝谷司教のご指導を賜りながら、札幌教区の司祭の皆様、信徒・修道者の皆様からの祈りや協力に支えられながら、活動してまいりました。まだまだ充分ではありませんが、これからも、学園に集う生徒たちがイエス様と出会い、マリア様に勇気づけられながら、神様の望む生き方を追い求めていってほしいと願っています。

一方で、わたし個人としては、教区の皆様にくらかもお返しができていないだろうか、と振り返ってみますと、ほとんど何もできていません。4年前に帰天されたマリア会の富來神父はよく小教区のミサや黙想会のお手伝いなどに行っていました。わたしはまったくできていません。

実を申しますと、足腰をはじめ全身の筋肉に少々問題を抱えており、段差の昇り降りがうまくできないので、わたしの方から自粛している状況で、大変申し訳なく思っています。

金祝おめでとうございます



ルカ
こんだげんご
今田玄五 神父
札幌教区

1948年10月20日生 77歳
1976年6月6日叙階
苫小牧地区長
室蘭・伊達主任 司祭



ヨアキム
かわかみ つよし
川上 剛 神父
フランシスコ会

1942年8月16日生 83歳
1976年7月18日叙階
釧路地区長
釧路(厚岸)・中標津・根室
共同主任



ヴァレンチノ
やまもと たかし
山本 孝 神父
フランシスコ会

1947年6月25日生 78歳
1976年7月18日叙階
旭川修道院

2026年4月1日付司祭人事

◇札幌地区

- 北一条・月寒・真駒内・北広島・千歳・恵庭
 - ・共同主任・モデラトル 松本繁彦 (札幌東ブロック主任)
 - ・共同主任 千葉 充 (札幌東ブロック助任)
 - ・共同主任 奇 浩培 (札幌地区協力)

●北一条英語ミサ協力

ビクニー・ハリコ (函館単地区協力・日本語研修)
森田健児 (札幌東ブロック協力)

●小野幌・江別・大麻・新田・岩見沢

- ・主任 藁島克哉 (苫小牧地区室蘭・伊達主任)
- ・協力 森田健児 (札幌東ブロック協力)

●山鼻・円山・手稲・小樽・倶知安教会

- ・協力・日本語研修
ビクニー・ハリコ (函館単地区協力・日本語研修)

◇苫小牧地区

- 室蘭・伊達
 - ・主任司祭 今田玄五 (稚内・名寄・土別・枝幸主任)

◇旭川地区

- 旭川五条・旭川六条・大町・留萌・羽幌
 - ・主任司祭 佐久間力 (旭川五条・留萌・羽幌主任)

●旭川六条・大町の任を解く (神居・富良野は継続)

- ・主任司祭 長尾俊宏
- ・助任司祭 中村道生

●稚内・名寄・土別・枝幸

- ・主任司祭 上杉昌弘 (北見・美幌・網走・遠軽・紋別主任)

●地区協力

オール・フランソワ (釧路地区帯広ブロック協力)

◇函館単地区

- 元町・宮前町・湯川・江差・八雲
 - ・主任司祭 李 勳珍 (湯川・八雲主任)

●当別教会

- ・主任を解く 吉元邦彦 (トラピスト修道院)
- ・主任司祭 後藤正史 (トラピスト修道院)

●地区協力 祐川南生 (元町・宮前町・江差主任)

◇教区

- 教区本部副事務局長 千葉 充 (小教区と兼務)

●その他

- ◇来道司祭 聖フランシスコ修道院 (札幌) へ
濱田 了 (さいたま修道院)

◇新地区長

苫小牧地区 今田玄五
北見地区 内藤孝文
函館単地区 李 勳珍

2026年5月1日付司祭人事

●その他

- ◇来道司祭 李 ^{イ・ハンビョル}한별 (ソウル教区)

※月寒教会にて短期の司牧実習

全国教区広報担当者会議



2026年1月19日から20日にかけて、全国教区広報担当者会議（広報宣教委員会委員長・勝谷太治司教、担当司教・酒井俊弘司教）が開催されました。

この会議は、各教区における広報の実情を共有し、最新の知識や技術、法的な課題、教皇庁の動向などを学び、各地の活動に還元することを目

的として毎年行われているものです。札幌教区からは広報委員長の松村神父が参加し、「札幌教区ニュース」やホームページ等の現状について情報交換を行いました。

初日の講話のテーマは「写真の基礎・記事を伝えるための写真とは」。カトリック中央協議会専属フォトグラファターの峰脇英樹氏を講師に招き、

昨今誰もが手にするスマートフォンを用いた効果的な撮影手法を学びました。研修の中で強調されたのは、「画像に物語やメッセージ性を込める」ことの重要性です。単なる記録としての撮影ではなく、「何を伝えたいか」を明確に映し出す姿勢が求められます。

特に、原稿執筆者と撮影者が異なる場合に生じがちな「メッセージの希薄化」という課題に対し、両者を同一人物が担うことで、より一貫したメッセージが生まれやすくなることを学びました。また、焦点の絞り方や、スマートフォン標準機能による明暗・色の

補正、アングルの工夫一つで、写真は驚くほど雄弁にメッセージを語り始めます。原稿執筆も写真撮影も、等しく「福音宣教」の一翼を担うものです。今回の研修を通じて、より強いメッセージ性を持つて教会を証していく可能性に触れ、非常に実り多い学びの機会となりました。

夜には全国の広報担当者の悩みや課題なども共有され、全国で連携できる関係性も構築され、貴重な時間を体験しました。

翌日には、広報担当の酒井司教による講話があり「バチカンやアジアのネットワーク」や「AI（人工知能）の活用方法」

「世界広報の日献金の予算活用」などについても情報が共有され、各教区の広報宣教を後押しするアドバイスをいただきました。

最後により良い広報宣教を求め、勝谷司教のミサにて各教区へ派遣され、会議を終えました。

（札幌教区広報委員長・

松村繁彦）

函館地区の歴史

函館地区の歴史は1859年（安政6年）のメルメ・デ・カシオン神父から始まり、オズーフ司教の時代から1891年にベルリオーズ神父が東京で司教に叙階され、函館教区長となり、元町教会がカテドラルとなりました。その後、1915年に北海道が札幌使徒座知牧区として独立しました。

1936年、司教座は函館から仙台に移行し、函館地区は仙台教区の一部となりましたが、1952年、函館地区を併合して全北海道は札幌司教区に昇格されました。

パリミッシン会の司祭たちがその基礎を作り、仙台教区に移ってから函館地区は仙台教区に属していました。一時期カナダ管区のドミニコ会が担当していたこともあり、ラサール会が函館に学校運営に乗り出し宣教します。白百合学園はオズーフ司教時代に函館に宣教に入りました（1878年）。ベルリオーズ司教の時代に

トラピスト、トラピスチヌ修道院を誘致し、現在に至っています。このように函館地区は、フランスやフランス系カナダ人の宣教師たちが基礎を作り、修道会、各施設や学校運営を通じて宣教活動をしてきました。

時は流れ、二一世紀に入ると、欧米からの宣教師の数は減り、邦人司教が担当するようになり、また、アジア系の宣教師が増えてきました。現在、函館地区は長年宣教活動にあたったパリミッシン会の司祭はいなくなり、邦人、韓国、フィリピンからの司祭がその宣教司牧を担当しています。

現在は邦人司祭の数もめつぎり減り、今後は韓国やフィリピンからの司祭たちが、この地区の宣教司牧にあたってくれることとなります。カトリックの教会は国籍を超えた「神の国」の一員として、普遍的な教会を目指しています。もちろん、染み付いている恩人たちの伝統も踏まえながら、「時のしるし」をよみつつ、主の教会はこの地にあった独自の発展をしていくのでしよう。（祐川郁生神父）

2025年 カトリック札幌司教区教勢報告書

2025年1月1日～12月31日

教区総面積	78,419 km ² (北海道地勢2025年1月1日現在)
教区総人口	5,044,825 人 (住基台帳人口2025年1月1日現在)

※ () は前年値		
在籍信徒数	12,999 人	(13,430 人)
教役者合計	266 人	(283 人)
信者総数	13,265 人	(13,713 人)
求道者数	83 人	(60 人)
洗礼者数	84 人	(80 人)
初聖体	41 人	(47 人)
堅信	46 人	(60 人)
居所不明	461 人	(617 人)
死者	239 人	(292 人)
婚姻件数	13 組	(20 組)
信徒同士	3 組	(5 組)
信徒と他キリスト教	1 組	(3 組)
信徒と非キリスト教	6 組	(11 組)
他宗教同士	3 組	(1 組)

教会名	信 徒 数				異 動					
	男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
1 岩見沢	99	145	244	0	3	4	0	1	4	2
2 恵庭	44	51	95	3	0	0	0	0	1	0
3 江別	43	63	106	8	0	8	1	0	4	1
4 大麻	91	128	219	42	0	1	0	1	5	0
5 北一条	241	448	689	57	30	1	5	9	11	5
6 北十一条	574	939	1,513	13	15	13	3	5	21	4
7 北二十六条	203	305	508	0	10	11	0	2	12	4
8 北広島	175	269	444	36	5	6	0	2	7	0
9 倶知安	27	44	71	4	0	0	0	1	3	0
10 小野幌	136	242	378	0	2	86	0	0	3	0
11 新田	51	83	134	5	1	1	0	0	4	0
12 小樽	61	183	244	0	4	6	2	2	13	5
13 千歳	61	119	180	0	1	0	4	0	0	1
14 月寒	205	360	565	0	2	8	1	3	9	1
15 手稲	146	218	364	0	0	6	1	1	4	0
16 花川	73	109	182	9	4	0	0	2	0	1
17 真駒内	192	304	496	17	19	81	1	4	8	4
18 円山	343	596	939	59	12	4	0	2	17	11
19 山鼻	226	379	605	0	12	4	3	3	13	2
札幌地区計	2,991	4,985	7,976	253	120	240	21	38	139	41

教会名		信 徒 数				異 動					
		男	女	合計	居所不明	転入	転出	幼児洗礼	成人洗礼	死者	求道者
20	江差	1	9	10	0	0	0	0	0	0	0
21	当別	58	69	127	40	0	0	0	0	4	0
22	宮前町	220	340	560	0	1	17	0	2	14	6
23	元町	74	148	222	0	1	1	1	0	4	0
24	八雲	23	47	70	10	0	0	0	0	2	0
25	湯川	200	327	527	0	3	1	0	1	10	1
函館地区計		576	940	1,516	50	5	19	1	3	34	7
26	網走	26	27	53	0	0	0	1	0	3	1
27	遠軽	13	15	28	0	0	0	0	0	1	2
28	北見※2	64	141	205	23	4	0	0	1	6	4
29	紋別	7	7	14	0	1	1	0	0	0	1
北見地区計		110	190	300	23	5	1	1	1	10	8
30	旭川五条	65	119	184	3	2	93	3	1	4	4
31	旭川六条	94	148	242	1	11	0	0	0	5	1
32	枝幸	9	5	14	10	0	0	0	0	0	0
33	大町	55	114	169	3	4	1	0	0	3	3
34	神居	41	67	108	9	4	1	0	0	3	0
35	士別	7	10	17	0	0	2	0	0	0	0
36	砂川	21	46	67	0	0	0	0	0	1	10
37	滝川	47	69	116	0	0	0	0	0	1	3
38	名寄	23	49	72	0	0	1	0	1	2	0
39	羽幌	9	16	25	0	0	0	0	0	0	1
40	美唄	16	44	60	2	0	0	0	2	1	0
41	富良野	25	44	69	0	5	0	0	1	4	0
42	留萌	54	94	148	12	0	0	0	3	5	0
43	稚内	39	41	80	36	1	0	0	0	1	0
旭川地区計		505	866	1,371	76	27	98	3	8	30	22
44	池田	20	34	54	0	0	0	0	0	0	0
45	帯広	160	229	389	0	6	1	1	2	5	0
46	釧路※3	146	214	360	20	0	24	1	0	4	0
47	中標津	56	98	154	28	2	1	0	0	2	0
48	根室	5	19	24	0	0	0	0	0	0	0
49	柏林台	59	97	156	7	0	40	0	1	4	0
50	本別	9	13	22	0	0	0	0	0	0	0
釧路地区計		455	704	1,159	55	8	66	2	3	15	0
51	苫小牧	93	169	262	0	2	3	0	1	4	2
52	静内	20	16	36	3	0	0	0	0	1	1
53	伊達	34	66	100	0	0	4	0	0	2	2
54	登別	30	37	67	1	0	0	0	0	1	0
55	東室蘭	34	93	127	0	0	6	0	0	3	0
56	室蘭	28	57	85	0	0	0	0	2	0	0
苫小牧地区計		239	438	677	4	2	13	0	3	11	5
合 計		4,876	8,123	12,999	461	167	437	28	56	239	83

※1 2022年度分より居所不明10年以上の場合は転出扱いとなり信徒総数より差し引くこととなった。

※2 (巡)美幌教会含む ※3 (巡)厚岸教会含む

旭川地区 侍者会

旭川地区の恒例行事である「旭川地区侍者会」が、1月11日～12日に開催されました。

この「侍者会」は、侍者の所作を学ぶことが一義的な目的ですが、旭川地区の子どもたちが同じ時間を過ごすことで、信仰を持つ「仲間」としてのつながりを深める機会にもなっています。今回は、参加対象を未洗者にも広げた結果、教会学校の参加者や洗礼に向けて勉強中の方を含め、23名の子どもたちが集まり、とても良い種まきの機会になりました。

侍者会では侍者の所作のほか、記念に残る制作をしており、今年には松ぼっくりや貝など、自然のものを使って「燭台」を作成し、夕の祈りとミサで使用しました。教会と関わりの少ない参加者が多かったため、自宅でも使うことができる燭台は思い出に残るものになったと思います。最終日には、子どもたち自ら役割分担やミサの準備をし、佐久間神父の司式によるミサを行い、再会を約束しながら帰路につきました。

子どもたちからは、今回から初めて取り入れたビュッフェスタイルの夕食が楽しかった、という子どもらしい感想のほか、友だちができて嬉しかった、また参加したい、というスタッフの疲れを吹き飛ばすような感想がありました。来年、再会できることを楽しみにしています。

(大町教会・梶山朋宏)



札幌地区 旭川巡礼

千葉充神父、奇浩培神父という札幌教区では若い2人の司祭

とSr.松宮るみ子の引率で、9月10日～11日の旭川巡礼に参加しました。

初日は、北一条教会で「巡礼を始める祈り」に始まり、富良野教会、三浦綾子記念館、そして巡礼指定教会である旭川五条教会で赦しの秘跡と御ミサに与りました。

2日目は、神居教会で朝の祈りと御ミサ、留萌教会、新田教会と回つてから北一条教会に戻り「終わりの祈り」の後、巡礼証明書をいただいて解散となりました。

2日間でしたが、旭川地区の5つの教会を訪れることができ、千葉神父に黙想のヒントをいただきながら、御聖体の前での静かな時間はとても貴重でした。また、自分の内面の問題を見つめ直すヒントをその中でいただきました。自分の家を離れ、日常のいろいろな仕事から解放され、次々と教会を訪れることは、人生が地上から天国へ向かう旅であること、その旅の最後に私たちが命がけで愛してくださいました神と、先に逝った多くの懐かしい人々が待っていてくださる本当の幸せの場所であることに思いが至る体験でした。

それぞれの教会で巡礼団を温

かく迎えてくださった神父や信徒の方々、そしてこの旅を企画、進行してくださった全ての方々に感謝いたします。

(山鼻教会・吉井美香子)

札幌地区 函館・苫小牧巡礼

9月24日～26日まで、司祭1名、修道者1名、事務局1名、一般参加者23名、合計28名による函館・苫小牧巡礼に参加しました。

日常を離れ、祈りと黙想のうちに神の慈しみを深く味わう、恵みに満ちた3日間となりました。バスの中のロザリオや教会の祈りは、心を整え神に向かう準備となったことはいまでもありません。

初日は、伊達カルメル会、トラピスト修道院を訪問。観想修道会での祈りは静けさと沈黙の大切さを感じ、神様の存在をより近くに感じた方も多かったのではないかと思います。特に、修道者と共に晩の祈りに参加したトラピスト修道院では、祈りの声が聖堂に心地よく響き、祈りのリズムに体全体が包まれたように感じました。

2日目は、函館の信仰の原点

ともいえる元町教会を訪問。荘厳な聖堂での祈りと祐川神父から教会の歴史について説明を受け、信仰を守り伝えてきた人々の歩みに思いを馳せました。ロザリオ(光の神秘)を唱えながら「ルルドへの洞窟」へつながら「祈りの道」を歩きました。湯川教会での李動珍神父の講話、トラピスト又修道院「旅人の聖堂」での祈り、宮前町教会での荘厳なミサで1日を終えました。

最終日は、苫小牧教会でのミサ。赦しの秘跡を通して一人一人が神の赦しと平和を深く味わい、小林神父や信徒の皆様との昼食。北一条教会での巡礼証明書の授与で全ての旅程が終了しました。

参加された方々のそれぞれの心に静かな感謝と新しい希望へと繋がり、日々の生活の中で神の愛を証しする者として歩む決意を新たにしたい巡礼であったと感じることができました。

修道会や各教会の神父、修士、信徒の皆様から受けたおもてなしに、また今回、巡礼団を祈りに深く導いてくださった佐藤謙一神父、Sr.松宮るみ子、旅行社、企画推進会議事務局に、深く感謝申し上げます。

(月寒教会・西田淳子)

道立高校で多宗教授業

2月9日、道立長万部高等学校の「地理歴史・公民」の授業においてユニークな試みを実施されました。

日本は、学校教育法第15条で「宗教に関する寛容の態度、宗教に関する一般的な教養および宗教の社会生活における地位は、教育上尊重されなければならない。」とされるも、但し、「国及び地方公共団体が設置する学校は、特定の宗教のための宗教教育その他宗教的活動をしてはならない。」と規定されています。ですから、私たち聖職者が公立学校の教壇に立つことは全くと言っていいほどありませんでした。

今回、長万部高等学校では「世界の宗教を知ろう」というテーマで、キリスト教、イスラーム、仏教、神道から講師を招いての多宗教授業が計画されました。仏教は寿都町の曹洞宗龍洞院の住職、神道は長万部町の飯生(いいなり)神社宮司、イスラームは札幌マシット(モスク)の宗教指導者、そしてキリスト教は長万部マリア幼稚園を通じてカトリック函館地区に依頼が

あり、桶田助祭が参加しました。授業は、1・2年生の科目選択者18名が各々3つの宗教を選び一コマ20分の授業と10分の質問という組立てで行われました。なお、町民が数人、参観に見えました。

後日、担当の先生から「生徒や地域住民の反響はとても大きかったようです。校内では、授業中に騒がしくなると、『隣人のことを考え静かにしましょう』と優しく発言する生徒が出たりしています。また、参観していただいた町民の方からは、『自分たちが高校生の時には、このようなお話を学校で聞くことができなかったもので、今回、お話を聞いてとても良かった。』といった感想が多く聞かれました。一方、町内の小中学校、大学、教育関係者からは『長万部高校でそのような取組みを実施するんだったら、もっと早く、うちの学校にも声をかけてよく。生徒に聞かせたかった。』『次も絶対声をかけてね』という声も聞かれました。私たちも、新しい方向性を発見できたように感じています。』という言葉をいただきました。

キリスト教の授業では、生徒から左記のような質問がありました。信者の皆さんだったら、

何と応えるでしょうか。

①キリスト教で禁止されている行為をしてしまったら、どうなるのですか？

②お祈りのあとに「アーメン」というのには、どのような意味があるのですか？

③キリスト教徒は、「罪」をどのようにものだと思っているのですか？

④他の宗教の人と結婚したらどうなるのですか。また、生まれてきた子どもは何教徒になるのですか？

⑤「汝の隣人を愛せ」という言葉が、個人的に好まない人を愛せるモノなんですか？

(桶田達也助祭)



ともに生きる お隣は外国人2



2022年春、教区ニュースのこのコラムで『お隣は外国人』の発行をお知らせしてから4年：第2弾が発行された！コロナ禍での発行だった前回は、社会全体がこれから先の展望も見えない中、北海道新聞社は、このような本の需要があるのだろうかという不安を抱えながら、少しでも北海道で働く技能実習生の現状をお伝えしたいという私たちの要望に応じてくれた。

あれから4年：今回は北海道新聞社から第2弾の打診があった。理由の一つは、2027年4月から施行予定の新しい在留資格制度「育成就労」により、技能実習制度が発展的に解消されるため、北海道の産業を支える現場はこれからどうなるのかという点。もう一つの理由は、コロナが終息し、北海道で働く外国人が更に多様化している現状である。加えて、昨今の排外主義の広がりに対して、噂や憶

測ではなく、北海道の現実を知って欲しいという思いだ。地域では益々外国人との「共生」社会への道が求められており、どこも試行錯誤の状況で、頑張っている人がいる。

今回、私に与えられたテーマは、北海道における外国人支援の歴史と教会の取り組みだった。支援の歴史？私が全てを知っているわけではない。何を書かかを迷いながら、これまで出会った方々を思い出しながら、次を担う誰かのために伝えておきたいことをまとめてみた。しかし、できることならば、「支援」ではなく、誰かが担うものでもなく、誰もが誰かのためにできることをする、そんな社会になって欲しい。いろいろな情報が氾濫している今だから、この本を通して北海道の現状を知って欲しい。

(札幌教区難民移住移動者委員会・西 千津)

人権講演会（2月21日札幌教区カトリックセンター）
「多様な性から考える共生社会の実現」参加報告

演者の中谷衣里さんのお名前は、同性婚裁判に関するニュースで目にしていましたが、おだやかで優しいお人柄にとっても好感を持ちました。「知ることから始めましょう！」というサブタイトルのとおり、いわゆる性的少数派（以下LGBTQ）について基本的なレクチャーを中心としたよい講演でした。

中谷さんは現在、レズビアンであることをオープンにしているらしいのですが、多くのLGBTQの人々は差別や偏見を恐れて、自分がそうであることをオープンにしている様子。実際私が出会った方は、こうおっしゃっていました。「私はカトリック信者でLGBTQですが、自分がLGBTQであることを教会では言っていません。言えば批判的になるからです。それよりも、教会の外のLGBTQサポート団体のほうがはるかに私に優しいです。」



が一定数いることに気づかされます。「もしもLGBTQの人々に自分がそうであると告白されたら、無理に平静を装わなくていい。相手の人格を尊重しながら、驚きや戸惑いは自然な感情として表すのも信頼のあかしです。」という中谷さんの言葉に、私は正直ほっとしました。大事なのは、驚きや戸惑いのあと、どうやってその人とともに歩んでいくのかです。
（殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会・St.宮崎妙子）

小野幌教会50周年

小野幌教会の50周年記念ミサが、2025年11月23日、勝谷太治司教の司式で行われました。50周年おめでとうございます。



カトリック札幌司教区
ハラスメント対応デスク

080-2879-3168

火曜～金曜 10:00～14:00
祝日及び夏季冬季休業日除く

✉ sapporo.harassmentdesk@gmail.com



2026年度 教区年間行事予定

4月27日(月) 司牧者月例会
4月28日(火) 顧問会・司祭評議会
6月 9日(火)～11日(木) 全道司牧者大会
6月13日(土) 教区宣教司牧評議会
7月25日(土)～8月3日(月)
フィリピンエクスポージャー
8月 8日(土)～15日(土) 教区事務局休業日
8月24日(月) 定期健康診断・司牧者月例会
8月25日(火) 顧問会・司祭評議会
9月 7日(月)～9月12日(土)
フランシスコ会年の黙想
9月14日(月)～19日(土)
教区・宣教会司祭年の黙想会
10月26日(月) 司牧者月例会

10月27日(火) 顧問会
11月 7日(土) 教区宣教司牧評議会
11月24日(火) 司牧者月例会
11月25日(水) 顧問会・司祭評議会
12月 3日(木) 教区召命の日(一粒会)
12月29日(火)～1月5日(火) 教区事務局休業日
【2027年】
1月25日(月) 司牧者月例会
1月26日(火) 顧問会・司祭評議会
2月22日(月) 顧問会・司牧者月例会
2月26日(金)
性虐待被害者のための祈りと償いの日
3月23日(火) 聖香油ミサ

◆殉教者聖ゲオルギオの
フランシスコ修道会



Sr.M.ヨハンニ
阿部幸子

25年12月30日、札幌マリア院にて神様のみもとに召されました。94歳。

【略歴】

1931年10月9日生まれ
1955年4月10日受洗
1962年3月24日入会
1971年8月12日終生誓願
2024年11月4日ダイヤモンド祝



Sr.M.オイティミア
渡部淑子

26年1月24日、手稲溪仁会病院にて神様のみもとに召されました。92歳。

【略歴】

1933年4月1日生まれ
1953年12月7日受洗
1961年9月8日入会
1969年8月12日終生誓願
2023年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.ロイス
平澤圭子

26年2月23日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。89歳。

【略歴】

1936年5月17日生まれ
1953年3月22日受洗
1956年9月15日入会
1964年9月23日終生誓願
2018年11月3日ダイヤモンド祝



Sr.M.ヴィルジニア
浅野みのり

26年2月26日、月形町立病院にて神様のみもとに召されました。99歳。

【略歴】

1926年7月28日生まれ
1946年12月24日受洗
1952年3月24日入会
1959年9月24日終生誓願
2014年11月22日ダイヤモンド祝



Sr. M. ヴェンセスラ
山本孝子

26年2月28日、花川マリア院にて神様のみもとに召されました。96歳。

【略歴】

1929年12月1日生まれ
1947年12月7日受洗
1951年8月25日入会
1959年9月24日終生誓願
2013年11月23日ダイヤモンド祝

白石共同墓

札幌市白石区平和通10丁目北5-1
札幌市白石本通墓地

札幌教区の司祭・修道者・信徒ならびにその家族を対象とした合葬墓

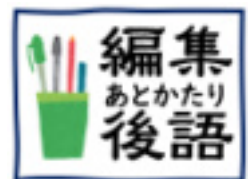


クリプト札幌

カトリック札幌司教区納骨堂

札幌教区カトリックセンター地下
家族壇568区画・合葬壇730
天候問わずいつでも墓参可能

お問い合わせ 〒060-0031 札幌市中央区北一条東6丁目10 札幌司教区本部事務局
電話 ■白石共同墓：011-241-2785 ■クリプト札幌：011-221-4244
いずれも平日9:00~17:00（土曜日曜日及び夏季冬季休業を除く）



11月に、北大大学院の応用倫理・応用哲学研究の公開シンポジウムに参加した。

10年ぶりの学問研究の場への参加であったので、最初はなかなか頭が回らなかつたが、時間とともに教授たちの発表に面白さを感じた。もともと私が関わっていた分野は人間科学宗教文化の宗教現象学という分野で、哲学や倫理とは少し異なっているが、属していたのが宗教学学会だったので遠からず近からず。かつて研究に没頭していた時、指導してくださった教授は私に何度も「自分の行う事の周辺の事物もしっかり研究しなさい。」と指導された。つまり「自分の専門分野だけに留まっていたには発展性がない」という事。周りを眺めることで新たな発見があるのだ。この事は学問に限らず、信仰も生き方も同じで、広く周辺部を眺めることで目先のものの捉え方が豊かになる。人生没頭することも大切だが冷静さを失っては、うまくいく事もないかなとなると教えられたのだ。
(松村繁彦)